

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 21 年 8 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。火山性地震はやや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 8 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高まった状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上 200～300 m（最高高度は 600m）で経過しました。

24 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（6 月 16 日）と比べて硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に大きな変化はありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2）

火山性地震は 3 月下旬以降増加しており、月回数は 2,512 回（7 月：2,041 回）とやや多い状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした（7 月：なし）。

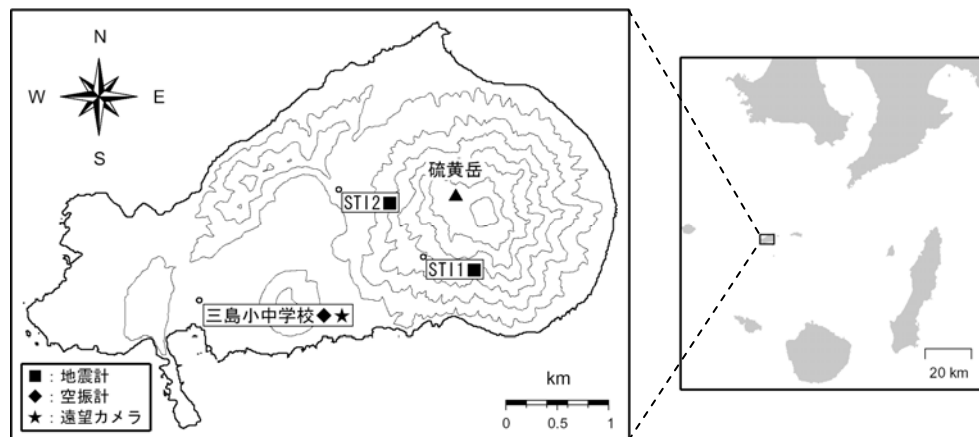


図 1 薩摩硫黄島 観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 9 月分）は平成 21 年 10 月 7 日に発表する予定です。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

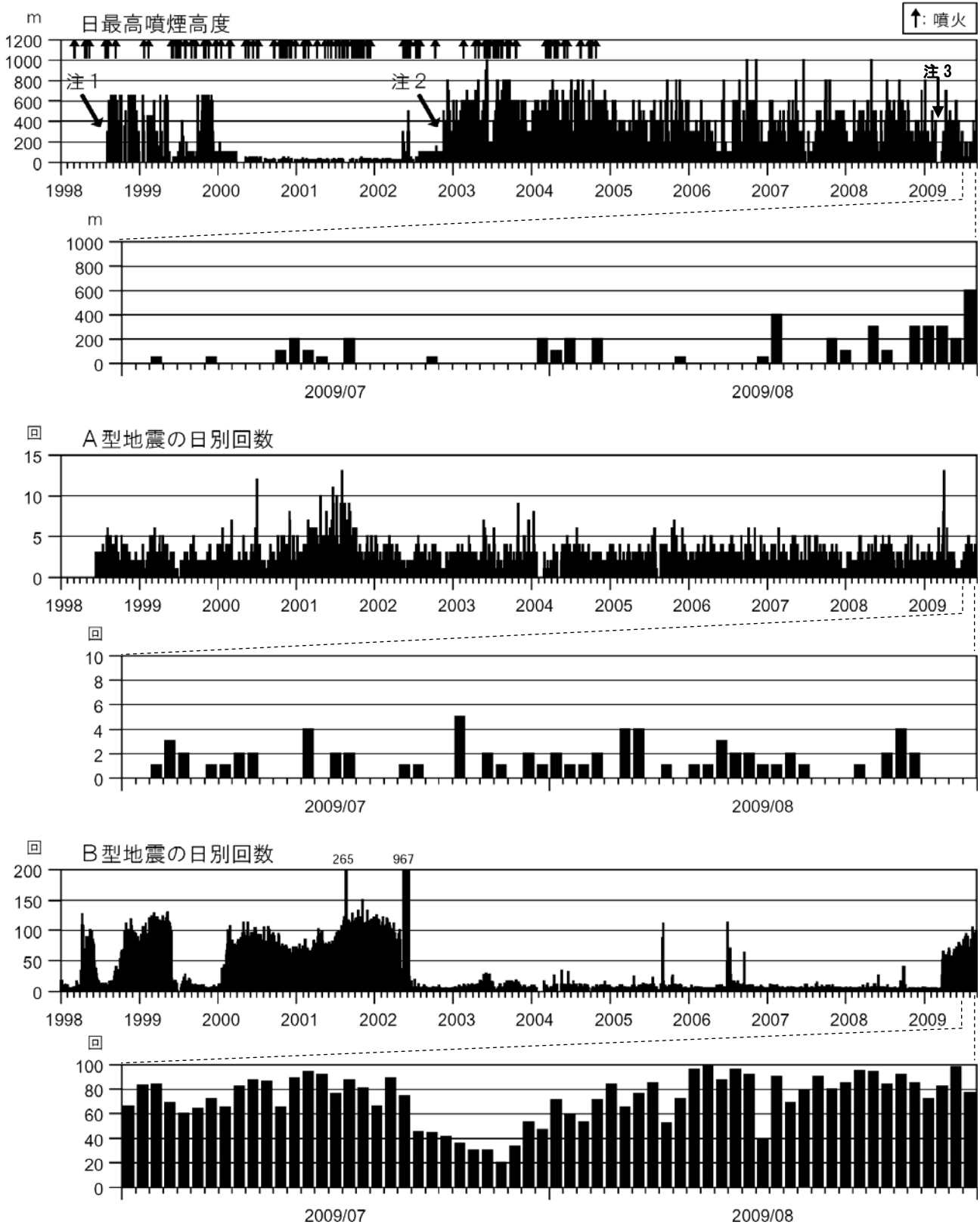


図 2 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2009 年 8 月）

< 8 月の活動状況 >

- ・硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高まった状態で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は 2,512 回とやや多い状態で経過しました。

注 1 1998 年 8 月 1 日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注 2 2002 年 11 月 16 日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注 3 2009 年 2 月 23 日から 3 月 21 日まで、遠望カメラ障害のため噴煙は不明。

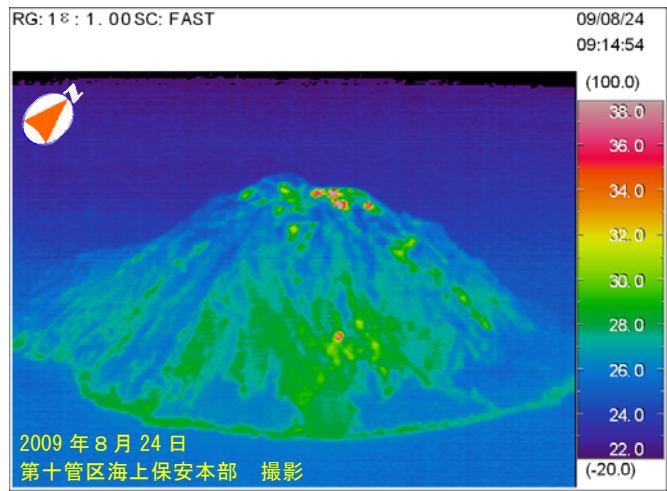


図3 薩摩硫黄島 赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布

24日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（6月16日）と比べて硫黄岳山頂火口及びその周辺の状態に大きな変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。